



今月の表紙

株式会社 ボイボーイ

代表取締役 わたなべ こういち 渡邊 弘一 氏 (竹田市久住町)

事業内容について

当社は、現法人代表である父の勝三が、できるだけ人の手を入れず、自然の姿のままで、多くの人に久住高原のすばらしさを味わってほしいという思いから、1997年にキャンプ場「モーモーランド久住オートキャンプ場」を開業しました。

また、2003年には場内に現在の法人名でもある「カフェボーイ」を開き、キャンプ、カフェ事業と行ってきました。

くじゅう連山・阿蘇山系・祖母山系を望む絶景と息をのむ星空が「ありのままがいい」と思わせてくれる、忘れられない大自然を全身で感じられる全面オートフリーサイトのキャンプ場となっております。

当社予約

URL:<https://www.nap-camp.com/oita/12087>



代表取締役 渡邊 弘一 氏

コロナ禍を経て、キャンプブームの到来

コロナ禍により観光客は大きく減少するものの、従来からのキャンプブームが一気に加速したことで、コロナ前の2019年と比べ、2023年は宿泊客数が増加しました。

また、キャンプブームに火が付き始めていた5年ほど前に、日本最大級のキャンプ場検索・予約サイト「なっぷ」を通じたインターネット予約を開始したことを機に、新規の問合せが相次ぎ、押し寄せる需要の波に家族だけでは対応できない状況を目の当たりにして危機感を強く感じておりました。



キャンプ場の様子

サラリーマンを辞めて家業を手伝う決断

それまで市外で妻と共に勤めていた医療機関を辞めて家族で久住へ戻り、2021年4月から家業に従事することとなりました。

以前は、病院勤務の傍ら週末のみ家業を手伝っていましたが、キャンプに来られるお客様により満足してもらうため、自分に何

かできることがあるのではないかと、という思いから後継者になることを決意しました。

週末だけ手伝っていた時と違い、キャンプ場運営という特殊な仕事内容のため労働時間にキリがなく、多くの慣れない作業に大変苦労しました。不慣れなキャンプ場運営ですが、お客様や久住の大自然と関わりながら、「自然環境を保護し、後世まで特別なキャンプ体験を提供できる場所」にしたいと考え日々尽力しております。勤めに出ていた時には味わえなかった満足感があり、何よりストレスがなく大変充実しています。

商工会の支援を受けながら

令和2年に「統一したブランドイメージの確立による情報発信体制の強化」として持続化補助金の申請をし、採択されました。

商工会の指導員に協力していただき、事業計画を作成し、積極的に国や県の施策を活用しております。

また、事業承継を計画した段階から、商工会に相談しており、「専門家派遣」を活用したり、「事業引継ぎ支援センター」との橋渡しをしていただいたり、と大変助かっています。

現在は生産性向上のため、受付時の省人化を検討しており、ITに詳しい専門家に来ていただき、アドバイスをもらっています。



持続化補助金にて作成したロゴデザイン

専門家派遣とは

商品開発、デザイン、SNS、会計、税務、事務作業…などなど経営には様々な悩みがつきもの。そんなお悩みに対し、専門的な知識を持った先生があなたの事業所へ出向いてお話を聞き、一緒に解決策を考えます。

持続化補助金とは

インボイス、賃金引上げ、働き方改革や被用者保険の適用拡大（小規模事業者が直面する制度変更 それらに基づいて行う販路開拓の取組み等の経費、経営計画を作成し、等に対応するため）導入等。の一部を補助するもの。

事業承継・引継ぎ支援センターとは

国が設置する公的相談窓口で、親族内への承継・第三者への引継ぎ等、中小企業の事業承継に関するあらゆる支援を行う機関です。

URL : <https://www.oita-hikitsugi.go.jp/>

● ● ● ● お気軽に管轄の商工会へご相談ください！ ● ● ● ●

今後の展望

ボイボイキャンプ場の一番の強みは、なんといっても久住高原の素晴らしい景観です。私自身、久住での生活とアウトドア体験によって、心が癒やされ、活力が蘇る経験を何度もしました。この素晴らしい自然環境を通じて、多くの人々に活力を取り戻す機会を提供していきたいと思います。この広大な久住高原の中でより多くの人にキャンプを楽しんでもらい、大自然を満喫してもらいたいです。その為にも、キャンプ場運営のほかにイベントの開催やその他いろいろな工夫と努力を重ね、将来はキャンプ場を更に広げたいと考えています。そしてキャンプ場をとおして、久住高原の美しさや素晴らしさを日本全国、更には世界に向けて情報発信し、大分県竹田市久住町全体を盛り上げていくことができたらと思っています。